

輸出事業計画

※申請者名：株式会社テンヨ武田、

品目：しょうゆ（濃口・淡口）及びつゆ類（しょうゆ加工品）

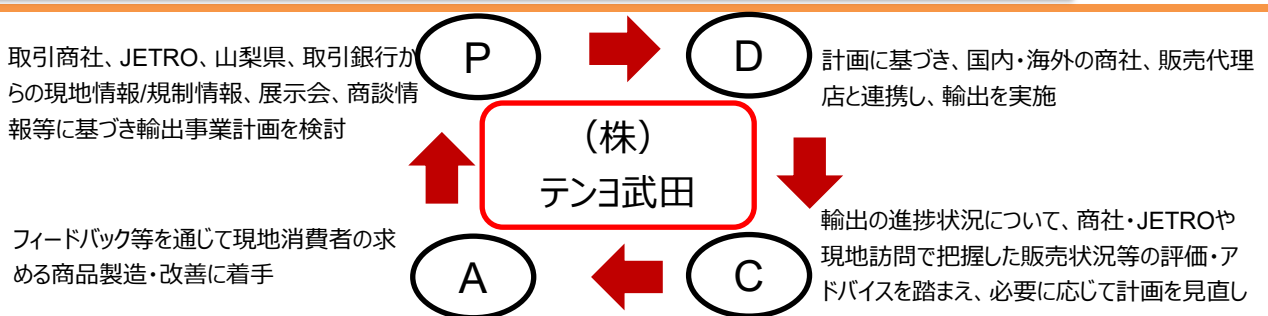
1. 輸出における現状と課題

- ・しょうゆ等の日本産食品に関しては、品質の高さと安全志向から中国国内の需要は高い。中国当局の輸入規制後に引き合いがあり、基礎調味料である濃口しょうゆ・淡口しょうゆを中心に販売していたが、調理現場の効率化の提案のため、つゆ・たれ・味つけぼん酢などのしょうゆ加工品の販売に広がってきた。
- ・昨今は大手メーカーの中国進出や中国の食品会社による日本調味料の製造販売が増えて、価格競争が激しくなっている。また日本食が富裕層から一部中間層にも広がり、かつ日本旅行で日本食を経験した人が増え、リーズナブルな本物を求める傾向となっている。そこで、日本製造に加えて、日本産の原料を使用することで優位性を高めたい。
- ・既存の輸出先国に加えて、特に現地での営業活動を行っている中国・香港・台湾・韓国・シンガポール・アメリカでの販売量増加を目指す。
- ・課題としては、発酵タンクを増設する必要があること、製造エリアの耐蝕改修を行う必要があることなどがある。

2. 輸出事業計画の取組内容

- ・自社で原料処理できる設備投資を行い、国産原料・山梨県産原料使用の優位性を獲得する。
- ・需要増をまかなうために発酵タンクの増設や更新を図る。
- ・補助事業を活用し製造エリアの柱・側溝ステンレス化、床面耐蝕塗り等の改修を行う。
- ・中国向けの輸出商品に関するラベル貼付設備を用意する。
- ・既存の取引先やJETROからのアドバイス、各種貿易関連講座の受講等を通じて、流通知識、現地の規制や市場情報について収集する。
- ・これまでは「日本製品・歴史のある商品」という打ち出し方をしていたが、今後は、「日本国産の原料・山梨県産大豆使用」を訴求ポイントとして、商品の差別化に努める。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

しょうゆ（濃口・淡口）

つゆ類（しょうゆ加工品）

年	令和3年	令和9年
輸出額	66,900,000円	90,800,000円

年	令和3年	令和9年
輸出額	13,100,000円	23,200,000円